



大切なあの人に 本格シルバーリング

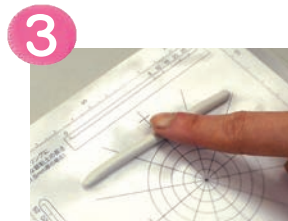
作り方



木芯棒に完成サイズよりも3号大きくふせん紙を巻きつけます。



アートクレイシルバー（以下銀粘土）を型から外しやすくするために、凹み部分にオイル（食用油）を薄く塗ります。



銀粘土10gを太さ5～6mm程度のひも状にのばします。



のばした銀粘土を空気が入らないように注意しながら型に詰めます。



定規などを使い、裏側を平らに整えます。



リングの内側になる面に水を少量つけます。

※表面が乾燥するとひび割れの原因になります。



形が崩れないように端から丁寧に取り外します。



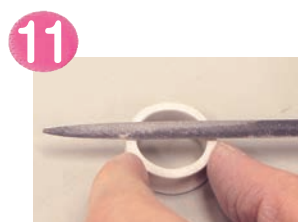
ふせん紙の中心に巻きつけます。



余分な銀粘土をカッターなどで取り除き、銀粘土同士に水をつけて指で馴染ませます。



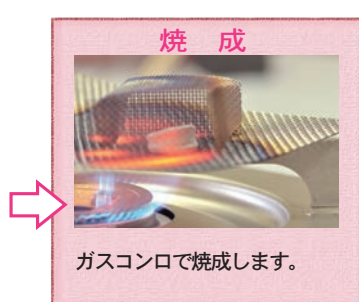
つなぎ目部分に隙間がある場合は、ペースト状にした銀粘土を埋めます。



乾燥後、中目ヤスリで側面を整えます。



スポンジ研磨材（赤）で全体を滑らかに整えます。



焼成後、ステンレスブラシで磨き銀肌を出します。



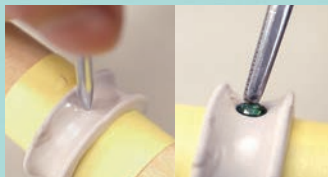
磨きヘラを使い、さらに光沢を出して完成です。

こだわりアレンジ①

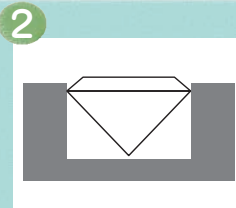
合成石を留める場合は、作品の厚みが石の高さより厚くなるように制作してください。

合成石を留めてみよう

本格的な留め方にチャレンジ



or



工程10の後、銀粘土が柔らかい内に合成石を深く（角が埋まるまで）埋め、乾燥させます。

※合成石は銀粘土が焼成中に縮むことで固定されますので、石を埋める際には、石の横の角の部分までしっかりと銀粘土に埋めてください。

乾燥後、ドリル刃で穴を開けます。

※貫通させないように注意してください。
※石の大きさに合わせたドリル刃を使用してください。
※石の高さより薄い作品には適していません。

合成石を入れ、高さを確認します。合成石の角が周りの銀粘土より少し埋まるように深さを調節します。

⇒ 焼成・仕上げへ

こだわりアレンジ②

イニシャルを入れてみよう



工程12の後、リングの内側に鉛筆でイニシャルを下書きします。



ウェットティッシュで軽く表面を湿らせます。

※擦ってしまうと下書きが消えてしまうので注意しましょう。



磨きヘラを使い、下書きに沿ってイニシャルを彫ります。

⇒ 焼成・仕上げへ